

平成 24 年度「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」共同利  
用型の研究成果報告書

中澤佳陽子（東京大学）

申請者は長きにわたり、ロシア革命後 1920 年代のソ連期の文学を研究していたが、最近  
になって研究対象を広げ、革命前の象徴主義文学の研究に手をつけ始めた。今回、「ソログ  
ープとその周辺」という研究課題をスラブ研究センターに申請したが、始めて間もない研  
究課題を採択していただいたことにまず御礼を申し上げたい。

申請者は 2 回にわたってスラブ研究センターを訪問し調査、研究を行った。第 1 回目の  
滞在（平成 24 年 11 月 6 日～9 日）は資料収集中心に研究活動を行った。主に利用したの  
は、20 世紀初頭の古い雑誌や書籍のマイクロフィッシュ、学位論文のコレクションである。  
北大の図書館はいずれも非常に便利で、閲覧・複写という作業をスムーズに行うことがで  
きた。国内の大学では北大しか所蔵していない資料を複写することができたのは申請者に  
とって大きな成果であった。

第 2 回目（平成 25 年 2 月 24 日～27 日）の滞在では資料収集とセミナーでの研究発表を  
行った。研究発表の時間として発表・質疑応答あわせて 90 分間という、通常の研究発表会  
では与えられないような十分な時間を取っていただけたため、現在申請者の考えているこ  
とを不足なく伝えられたように思う。研究発表は「ソログープ作品におけるメレジコフス  
キー」という題で行った。内容は、「ソログープの小説『創造される伝説』（1907-1914）に  
は、メレジコフスキーの霊肉の止揚をめぐる議論への応答という側面があるのではないか」  
という仮説の提示とその検証であった。具体的には、『創造される伝説』におけるメレジコ  
フスキーをモデルにした登場人物の描写を検討し、ソログープが 1905 年革命前後の時期の、  
メレジコフスキーの思想上の翻意を批判的に扱っていることを指摘した。また、『創造され  
る伝説』の中にメレジコフスキーの歴史小説『神々の復活 — レオナルド・ダ・ヴィン  
チ』（1900）のテキストを意識したと思われる部分があることから、『レオナルド・ダ・ヴ  
ィンチ』執筆当時のメレジコフスキーが持っていた「芸術による世界の救済」という理念  
をソログープも共有し、メレジコフスキーが翻意した後もソログープはその理念にこだわ  
り続けたという結論を導いた。

聴講していただいた先生方には色々有益なアドバイスをいただいた。そのアドバイ  
スにより、申請者の思考から抜け落ちていた点や、申請者が陥りがちな思考上の欠点（作  
品を図式的な枠組みに還元してしまいがちなこと等）にも気づかされた。研究発表に対し  
て色々な意見を伺えた点が、第 2 回目の滞在での最も大きな成果であると思う。セミナー  
での発表内容を、修正すべきところは修正して、近々論文にまとめ学術雑誌に掲載したい  
と思っている。

最後に、今回のような研究の場を与えてくださったスラブ研究センターと諸先生方に改  
めて御礼を申し上げたい。